談話標識「なんか」についての一考察

若松史恵(東京科学大学)

1. はじめに

本稿では自然談話における「なんか」の使用状況を調査し，会話形式による談話標識「なんか」の使用傾向の違いについて明らかにする．談話標識とは，話し手の態度や意図を意識的に，あるいは無意識的に聞き手に伝える役割を持っており，聞き手が談話の意味を理解する手助けになるような標識の役割を持つ語である．談話標識は文を超えた単位にも作用し，発話のやわらげ，話題の転換，話を進めるなど，コミュニケーションのスムーズな進行に重要な役割を担う（鈴木 2000，内田 2001，林 2006 など）．「なんか」は日本語の日常会話に頻繁に使用されている語である．語本来の意味として，不特定なものを表す代名詞「なに」と付加された助詞「か」の音変化による連語としての用法や，なんとなくといった意味を表す副詞としての用法が見られるが，語本来の意味から談話標識としての用法が発達し，話し手の責任の軽減や聞き手の不快感の軽減などの対人的な機能や，新しい話題の開始や会話の推進，間つなぎなどの談話を構成する機能を持つことが指摘されている（内田 2001，林 2006）．言語の使用には，話者の属性や言語使用域が深く関わっていると考えられるが，これまでの「なんか」に関する研究で使用された会話データは若者の雑談が多く，データの偏りという点で課題が残されている．そこで，本稿では，性別・年齢等のバランスが考慮された『日本語日常会話コーパス』（小磯ほか，2023）を用いて「なんか」の使用状況（分析 1），及び会話形式による談話標識「なんか」の使用傾向の違い（分析 2）を談話分析により明らかにする．

2. 先行研究

「なんか」は，代名詞「なに」に副助詞「か」が付加された連語「何か（なにか）」の音変化である．その語源的な意味は「不確かさ」を表していると考えられ，以下のような用法に大別できる．

1. 内容が不定，あるいは未知であることや物を指す．同類のものを指示したり，はっきり言わずにぼかす．
「―欲しいものを言ってごらん」「風呂敷か―あったら貸してください」
2. 副詞的に用いて，何だか，どうしてか，なぜか，の意を表す
「―もう一つしっくりしない」　（『大辞林』第四版より作成）

一方で，「なんか」には談話標識としての用法があることが指摘されてきた．語本来の「不確かさ」から談話標識としての用法が派生したとされ（内田 2001，林 2006），現代日本語では，語本来の用法と談話標識としての用法の両方が見られる．鈴木（2000）は「なんか」の機能を意味論的機能，語用論的機能，談話調整機能の 3 つに分類し，「なんか」が辞書的な意味である意味論的機能に加え，発話内容に対するあいまいさや自信のなさといった発話者の態度をメタメッセージとして聞き手に伝える語用論的機能及び，話題導入の前置きや，発話権を確保・維持する談話調整機能を持つことを指摘している．

3. 分析方法

本稿では，会議・会合，用談・相談，雑談の 3 つの会話形式における「なんか」の使用状況を調査する．まず，分析 1 として「なんか」の使用状況を，属性（性別），属性（年齢），会話形式，用法について調査する．さらに分析 2 では，用談・相談に多く見られた対人的機能（発話のやわらげ）と，雑談に多く見られた談話構成機能（語りの推進），の 2 つに注目し，「なんか」の使用傾向の違いを明らかにする．

3.1 分析に使用するデータ

本稿の分析には『日本語日常会話コーパス』（以下，CEJC）のコアデータ（20 時間，52 会話，異なり話者 135 名，約 25 万語）を使用する．CEJC には会議・会合，用談・相談，雑談，授業レッスンの 4 つの会話形式が収録されているが，このうちコアデータに収録されている会議・会合，用談・相談，雑談の 3 形式において用いられる「なんか」を分析の対象とする．

コーパス検索アプリケーション『中納言』を用い，キーに語形「ナン」，後方共起条件に語彙素「か」を条件として検索し

て得られた 1,714 件の「なんか」を対象に，動画データを確認しながら用法を認定する．

3.2 「なんか」の用法

「なんか」の用法を (1) 代名詞としての用法，(2) 副詞としての用法，(3) 談話標識としての用法に大別し，さらに談話標識としての用法は，その機能から対人的機能，談話構成機能に分類する．対人的機能とは，あいまいさや自信のなさを示し，話し手の責任の軽減や聞き手の不快感の軽減などの，発話をやわらげる働きを持つもの，談話構成機能とは，新しい話題の開始や発話のつなぎなど，会話を推進する働きを持つものとする．

(1) 代名詞としての用法 (K001_008)

384 萌 (旅行で撮った写真を見せながら) 昔ながらのカフェなんだって
385 郁 これ(0.506)食:べた:い: わー お腹すいてきちゃったな:?
386 萌 ね
→ 387 郁 **なんか**買ってって 千佳んちで食べよう
388 萌 うん

萌と郁は，この後千佳の家に行く予定である．萌が撮ったカフェの様子が写った写真を見た郁は「何か (なんか)」を買って千佳の家で食べようと提案している．この「なんか」は，「何かしら」といった意味の代名詞としての用法と認定した．

(2) 副詞としての用法 (K002_014)

231 朔也 え 何 これ
232 杉田 ウインナー
233 朔也 なんで?
234 杉田 水キムチ ん 持ってきてたの よいしょ 食べてみて
→ 235 朔也 **なんか**ビュッフェっぽい匂いがする (L)
236 杉田 うん
237 朔也 スクランブルエッグ?
238 杉田 そう そう そう

朔也は，父親とともに朝食をとっている．杉田 (母親) が次々と運んでくるおかずに「ビュッフェっぽい匂いがする」と喜ぶ様子を見せるが，ここで用いられる「なんか」は「何だか」といった意味を持つ副詞としての用法と認定した．

(3) -1 談話標識としての用法：対人的機能 (T001_009)

73 義母 野際陽子さんが(0.334)ガンとかっつってたでしょ?
74 広瀬 あっ そうなんすか
→ 75 義母 うん **なんか**肺ガンとかって出てた うん

広瀬と義母はテレビ番組について話している．義母が好きなドラマに出演していた俳優の野際陽子について，「なんか」を用いて報道に出ていた病名を伝えている．ここで用いられる「なんか」は伝聞の内容をあいまいに伝え責任を軽減する対人的機能を持つ談話標識としての用法と認定した．

(3) -2 談話標識としての用法：談話構成機能 (T008_008)

113 母 結局(0.414)もう今は い (0.333)世の中は性善説を否定しようとしてるみたいで
→ 114 彩香 **なんか** サンマがぶら下がってる
115 母 だってあーちゃん 今いらないって言ったからさ
116 母 もう(0.343)焼くのは:熱くないとおいしくないから あとで 場所がなかったの
→ 117 彩香 **なんか** するっと来月(0.338)の(0.26)お尻とかに辞めれないかな
118 母 えっと 雇用期間だったらそんなに長く待たされるってことないんじゃないの?

綾香と母は，最近起きた大量殺人事件についてキッチンで話している．その際綾香がサンマに目を止め，114 行目でサンマへと話題を変えている．「ぶら下がっている」理由についての母の語りを聞いた後，綾香は 117 行目で再度「なんか」を用いて今度は自身の転職へと話題を変えている．ここでの「なんか」は談話構成機能を持つ談話標識としての用法と認定した．

4. 分析結果

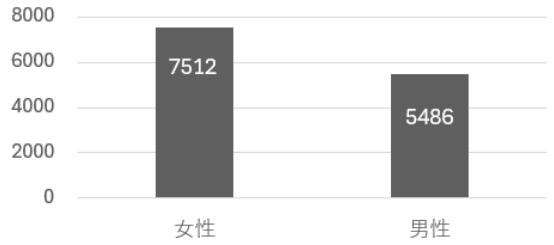
4.1 分析 1 の結果

分析 1 として「なんか」の出現状況を，(1) 属性 (性別)，(2) 属性 (年齢)，(3) 会話形式，(4) 用法について調査した．なお，(1) ～ (3) は調整頻度 (百万語当たりの頻度) を，(4) は粗頻度に基づいた出現割合を示す．

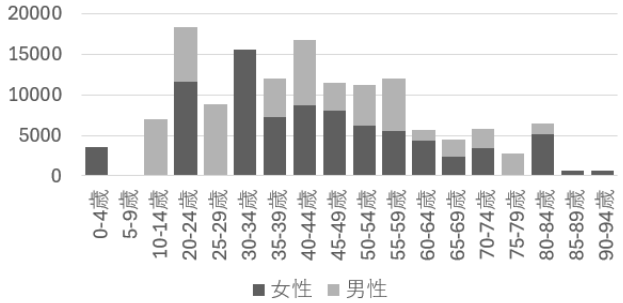
(1) 性別では，「なんか」は男性と比較して女性により多く使用されており，(2) 年齢では，ボリュームゾーン (20 代～40 代) は見られるものの，幅広い世代に使用されている．また，(3) 会話形式では，会議・会合で最も少なく，雑談で最も多く使用されていた．さらに (4) 用法別 (代名詞用法，副詞用法，談話標識用法 (対人的機能，談話構成機能)) にみると，会話形式ごとに異なる傾向が見られた．そこで，用法別の出現数をカイ二乗検定により調べたところ，用談・相談では談話標識用法の対人的機能(172 件)が，雑談では談話標識用法の談話構成機能(588 件)が多いことがわかった($x^2(8) = 103.999$,

p<.01)．なお，「なんか」の直後で発話が途切れ，用法の認定が困難であったものを「いいさし」とした．

(1) 属性（性別）

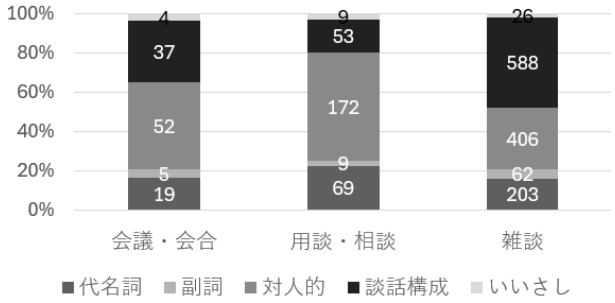


(2) 属性（年齢）



(3) 会話形式

(4) 用法



4.2 分析2の結果

分析2では，「なんか」の談話標識としての用法に着目し，その機能を検討する．「なんか」の対人的機能及び談話構成機能を細分すると，対人的機能は，意見や判断を伝える（511件），伝聞（91件），説明の前置き（28件）に，談話構成機能は，発話のつなぎ（467件），話題の発展（154件），話題の導入（38件），話題を戻す（19件）に分けられた．以下では，用談・相談に多く見られた対人的機能と，雑談に多く見られた談話構成機能を中心に検討する．

(1) 用談・相談に見られた談話標識「なんか」の対人的機能：意見や判断を伝える

①お花（T010_009 用談・相談）

473 石塚 お花もらって嬉しいかな
474 徹 いーやー 邪魔ですよね? 酒の席とか(L だと:) (L)
475 石塚 あー そう
476 石塚 俺こないだもらったんだけどさ
477 徹 あー あー そうなんですね?
478 石塚 (L) うん
→ 479 徹 いや **なんか**
480 石塚 いや そりゃすごく嬉しかったよ?
481 徹 はい
482 徹 一個 その(0.299)先生にとかだったらいいかなと思うんすけど

徹（大学生）は，石塚（ゼミの先生）に，送別会で先輩に渡すプレゼントについて相談している．石塚からの花という提案に対し，徹は一旦は邪魔だと否定的な意見を述べたものの，石塚がこの間花をもらったという話を聞き，「なんか」の後，「先生にとかだったらいいかなと思う」と婉曲的な表現とともに肯定的な態度を見せる．①のほかにも，「みたいな」「気がする」などの婉曲的な表現とともに「なんか」を用いて自身の考えを述べる様子が見られた．

②カレンダー（K003_006 用談・相談）

87 詩織 （実験に参加する子どものリストを見て）増えたね?
88 由佳 い でも(0.364)ここ く たん ここたぶん(0.669)子供によってはバツする
89 詩織 あー あ ここに書いてくれたんだ スケジュール
→ 90 詩織 ね **なんか**カレンダー作ったほうがよくない?
91 由佳 でもパソコンにあたし 作ってあるよ?
詩織 ってくれてたけどさ: パソコンないと見れないじゃ:ん?

詩織（大学生）は，由佳（同級生）の実験の実施について相談を受けている．実験には子供が参加するが，そのスケジュール管理について，「なんか」を用いて（パソコンではなく紙の）カレンダーを作る方が良い，と意見を述べている．(1) とは違い，(2) には婉曲的な表現は用いられていないものの，「なんか」を用いて相手に反対する意見をやわらげていると考え

られる.

(2) 雑談に見られた談話標識「なんか」の談話構成機能：話題の発展，発話のつなぎ

③整形外科 (C001_001 雑談)

	82	玲子	あの で 怪我はよくなったの
	83	美沙	あのね えーと(0.926)今も あの 走ると: えーとね: ちょっとお尻がむずむずするんだよね?
	84	玲子	うん うーん
	85	可奈子	あー
	86	美香	ほんと?
→	87	美沙	ん **なんか**でも あのね 整形外科に うーんとね: 行ったの
	88	夏樹	へー
	89	美香	なんで その後遺症?
	90	玲子	うん
→	91	美沙	**なんか** で 最初 えーと 代々木病院に(0.321)怪我したあと 一番近いから行ったんだけど
	92	玲子	うん うん うん
→	93	美沙	**なんか**あんまり(0.146)こう手応えがない
	94	玲子	うーん
→	95	美沙	(L **なんか**あんまちゃんと見てなく%見てくれなくて)
→	96	美沙	で:しかも **なんか** 受け付けですごい時間がかかって
	97	玲子	うん
→	98	美沙	で(0.432)で調べて: あの 整形外科さんで(0.338)痛みを **なんか** 相談してくれてってゆうか **なんか** 長年悩んでる痛みを なんちゃらってゆうようなお医者さんが笹塚にいて

美沙（会社員）はスケボーで怪我をし，今も「お尻がむずむずする」ことを友人たちに話しているが，87 行目で整形外科へ行ったことへと話題を発展させ，その後の 91，93，95，96，98 行目でも主に節頭に「なんか」を用いながら，自身の語りをまとまりをもって構成し，語っている．節末には会話参加者からのあいづちが多くみられ，その位置で相手へと発話権が移る可能性も考えられるが，美沙は「なんか」を用いて発話をつなぎ，自身の主導権を維持したまま語りを続けている．

5. おわりに

「なんか」の出現状況の調査から，会話形式により談話標識「なんか」の使用傾向が異なり，用談・相談では対人的機能が，雑談では談話構成機能が多く用いられていることがわかった．事例分析から，その違いがそれぞれの会話の特徴から現れていることが示唆された．すなわち，用談・相談では，話題，もしくは解決すべき課題があらかじめ固定されており，会話の多くの部分が，話題もしくは課題について相手に意見を求めたり，意見を伝えたりすることで構成されている．その際，話者は自分の意見や判断を直接的に伝えることを避け，「なんか」で発話をやわらげたり，時には「なんか」と婉曲表現を共起させることであいまいさや自信のなさを示し，自身の責任や相手の不快感を軽減する様子が見られた．一方，雑談では，話題はあらかじめ固定されておらず，会話はその流れに応じて，会話参加者が場当たり的に話題を発展させることで構成されている．会話参加者は自身の経験やエピソードなどを語るために，発話権を取得し，まとまりのある談話を構成することが多いが，会話相手に発話権を譲らず語り続けるために，「なんか」を用いて自身の発話をつなげ，主導権を維持する様子が見られた．その際に複数回にわたり「なんか」が用いられることもあり，特に雑談で談話構成機能を持つ「なんか」が多く現れたと考えられる．

本稿では取り上げなかった会議・会合は，用談・相談と同様に対人的機能の使用が談話構成機能を上回っている．会議・会合も用談・相談と同様に話題もしは議題があらかじめ固定されていることから，同様の結果が出ている可能性が考えられる．今後も会話形式と談話標識の使用について考察を深めていきたい．

参考文献

林千賀 (2006). ディスコース・マーカー「なんか」の発達:意味の漂白化 昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究, 1, 39-51.

小磯花絵ほか (2023). 「『日本語日常会話コーパス』設計と特徴」『国立国語研究所論集』, 24, 153-168.

鈴木佳奈 (2000). 会話における「なんか」の機能に関する一考察 大阪大学言語文化学, 9, 63-78.

内田らら (2001). 会話に見られる「なんか」と文法化 :「前置き表現」の「なんか」は単なる口ぐせか? 東京工芸大学工学部紀要 人文・社会編 24(2), 1-9.

文字化の記号

: 非語彙的な母音の引き延ばし % 非語彙的な音の詰まり ? 疑問型上昇調 (L) 笑い